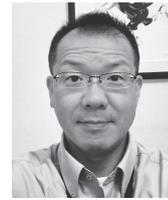




会員寄稿

思い返してみると、 災害 コロナ禍 仕事 健康

株式会社ドーコン／都市・地域事業本部／都市環境部／部長 吉田卓史



1. はじめに

わたくしは、株式会社ドーコン 都市・地域事業本部 都市環境部長 吉田卓史と申します。今回、“思い返してみると”と題しまして、寄稿させていただきます。

日本は、地震、台風、豪雨、豪雪など、さまざまな自然災害に見舞られることが多い国です。

2020年6月に世界ランク1位となったスーパーコンピュータ富岳を活用した地球シミュレータにより、これらの自然災害の予測精度はどんどん上がってゆくものと思いますが、まだまだ予測できない事象も多く、そして、これらは突然襲い掛かり、途方もない確率の中で、連続して起こることもあるのです。

わたくしが業務の拠点をおく北海道では、2018年9月5日未明、暴風雨を伴う台風が上陸し、翌日2018年9月6日未明、北海道胆振東部地震が発生と、自然災害が連続で発生しました。

また、自然災害だけでなく、最近のコロナ禍における業務の継続性などを考察し、仕事、健康について、今になって思い返してみたことを、つらつらと思いのまま、綴らせていただきます。

2. 災害・コロナ禍・仕事・健康

(1) 北海道胆振東部地震前夜の台風

地震の前日である2018年9月5日水曜日3時頃に、台風21号が北海道近くを通過し、凄まじい暴風が吹き荒れました。

わたくしの家のある街路樹は倒木し、一部では停電が発生しました。札幌市での最大瞬間風速は30mを超えました。

わたくし自身の被害は、自宅の車庫上にこしらえた30m²のテラスが、柵ごと吹き飛ばされました。運よく自分の敷地内に柵などの残骸が落下したため、隣接する住宅地への被害は食い止めることができました。

未明での出来事でしたので、その日は休暇をもらい、テラスの残骸処理に時間を費やしました。無残な形になったテラスの残骸を、車庫上から1階に運び出すため、解体する必要がありました。とてもお気に入りのテラス



写真-1 近所の街路樹倒木

でしたが、自らのこぎりを入れて、泣く泣く細かく切り分け、1階地上へと何度も往復して運び出しました。

9月5日の夕食では、家族みんなで、台風被害の甚大さを話しました。近所で停電があり、停電への備えが必要だよねと話して眠りにつきましたが、その日の深夜に地震に襲われるとは、この時点では思いもよりませんでした。

(2) 北海道胆振東部地震の当日

台風一過の未明、2018年9月6日木曜日3時7分に北海道胆振東部地震が起こりました。日本発の大規模停電“ブラックアウト”が発生し、この言葉は、瞬間に全国に広まりました。

多くのインフラの中でも、電力がまず初めに復旧するだろうと思っておりましたが、わたくしの家のある、結局9月8日土曜日21時まで停電が続きました。

災害の備えの中でも、大容量バッテリーや発電機までを準備されていた方は、ほとんどいなかったと思います。このため、電力の確保に苦労しました。発災時には、まず情報収集が重要です。情報収集のためにスマホを活用していましたが、モバイルバッテリーにより使用を継続しつつも、結局は携帯基地局の非常電源が数時間で失わ



写真-2 ブラックアウトの夜

れ、通じなくなりました。そのうち、モバイルバッテリーも限界を迎えます。

そこで活躍したのが、自家用車です。自動車からコンセントに出力させる変換機は常備していましたので、こちらを活用して、電池の充電、スマホの充電を行いました。車には地デジを積んでいるため情報収集も可能でした。このことを思いつくのに半日費やしました。

その後、車の活用が進むと、どうしてもガソリンの確保が大きな課題となります。ガソリンスタンドでは、ガソリンを買い求める車で長蛇の列が形成され、公平に行き渡るよう1台あたりの販売量が限定されていました。満タンにすべく、1日かかりでガソリンスタンドを転々としたことが思い出されます。

ブラックアウトの夜は、電池式ライトを照らし、家族全員が居間に集合して、食事、雑魚寝をしました。

振り返ると、ぞっとするのですが、これが冬だった場合です。オール電化の暖房は当然機能しませんが、北海道では、灯油やガスを使った集中暖房システムを採用している場合もあり、これが厄介なのですが、電力がないと起動せず、室内を温めることができません。

このことを教訓に、2019年4月に、さっそく、木造17畳（居間相当の広さ）を温めることができ、電池で点火できる灯油暖房器具を購入しました。

北海道では、灯油タンクが常設されている場合が多いので、この燃料の備蓄と、電池式・可搬式の暖房器具があれば、停電時でも安心して暖をとれますので、ひとつ安心が増えました。

さて、ブラックアウトの初夜のことです。とても大変な夜でしたが、とっておきの贈り物がありました。9月6日の夜は月の影響もなく、見上げた星空の、なんと綺麗なことか。自宅で、あれほどの星を見ることができると、思いもよりませんでした。大変な災害でしたが、素晴らしい体験をすることができました。

(3) 仕事の継続性

大規模災害が起こったとき、業務をどのように継続することができるのでしょうか。まずは、業務を行う空間が必要です。昨今のコロナ禍では、テレワークなどの活用も増えて、在宅勤務という手もありますので、必ずしも1拠点に集まって仕事をするのが条件でもなさそうです。各企業の人的資源、ネットワーク機能を駆使して、早期に業務再開を行い、業務の継続性を維持することが重要です。必要なキーワード列記してみました。

- 人的資源、仕事をする仲間（社員、出向、派遣）
- 仲間が集まり仕事ができる業務拠点
- 拠点における業務設備の回復（出力のためのプリンタ等複合機など）
- 分散した業務場所を結ぶためのサーバ・ネットワーク構築、通信ルータ・携帯電話の調達、配布
- 仕事PCと業務ソフトウェアの調達、業務効率化のためのハイパワーなPC・大型ディスプレイの確保
- データの一元管理、定期的なバックアップ、セキュリティ確保のためのVPN環境、アンチウイルスソフト導入、コミュニケーションツール mail、zoom、teams等の導入

最低限、これらの環境があって、不自由なく仕事ができると思います。もし、これらの環境が失われたら、これらをいち早く用意することが早期の業務再開につながります。しかし、業務場所は、急には見つからないものです。はじめは、とにかく、狭くても皆が集まれる場所を確保し、そこに集まればまずは再会できる拠点を確保することが重要です。

(4) 健康

現在、わたくし50歳でございます。健康面からスポーツなど、体を動かすことが必要と思い、かねてから長距離ウォーキング（10km程度）を週1ぐらいで行っております。しかし、少し飽きてきまして、新しいスポーツにチャレンジしたいと思った時、ふと頭の中にゴルフという3文字がなぜか浮かびました。2018年5月から突如始めております。

ゴルフ練習場は、年中無休で、朝早くから夜遅くまで営業してるんですね。札幌周辺では、冬はラウンドできませんが、ゴルフ練習場であれば北海道の冬でも平日の夜や休日の気が向いた時間に練習ができます。2千円、300球、3～4時間。結構な運動になります。

スポーツとして真剣に取り組み、練習場では300 y 飛ばせるようになりました。当面100切り目指して頑張ります。50歳過ぎてワクワクしております。（おわり）



第二の故郷

株式会社 NJS / 仙台事務所 / 副所長 青木栄嗣



1. はじめに

今年の4月より、異動により東北支部会員の仲間入りをいたしました。勤務地は仙台市になります。

私は仙台にある大学に進学したため、故郷を離れ、仙台で暮らし、学生時代を過ごしました。

久しぶりに仙台で暮らすことになり、自分のいるべき場所に戻ってきたという感じがしており、感慨深いものがあります。

ところで、寄稿と聞き、テーマは自由となれば、東北支部会員として、東北の様々なところを、自ら赴き、自分で撮影した写真を掲載しつつご紹介したいところですが、このご時世、外出を自粛しており、ままなりません。仙台市内、あるいは近辺を、独自の視点で、あまり役に立たない私の思い出と合わせて、ご紹介したいと思います。水坤といえば、硬派な機関紙、このような内容でいいのか分かりませんが、箸休めにご覧ください。(ちなみに原稿は、5月頃の作成です)

2. 第二の故郷

テーマを「第二の故郷」とさせていただきます。

考えてみれば、大学での生活は、人生の中でわずか4年程度、それなのに、故郷と呼んでしまいます。

大学時代は、10代から20代へ、人生の中で成人という大きな節目を迎えます。同じような志を持つ学友との出会い、あるいは、生涯の伴侶となる人との出会いなどあるかもしれません。

でも、それだけで、故郷にはなりません。首都圏の都市部の大学に進学して、そこを第二の故郷と呼ぶかといえば、それは無いと思います。首都圏に住めば、やはり、その場所はそのまます仕事先となります。終の棲家となる方も多いでしょうが、故郷、しかも第二の故郷とは言わないかと思えます。

地方都市の良さは、そこが帰る場所になり得るところかと思えます。適度な都市としての機能、街の大きさ、自然との近さがあります。

大学時代をそのような場所である仙台で過ごせ、そして、その場所でまた過ごせることに感謝しています。

3. 仙台駅周辺

大学進学が決まり、初めて東北の地に足を踏み入れた場所が仙台駅ですが、久々に訪れ、駅内の景色は昔と変わりませんでした。仙台駅のステンドグラスが出迎えてくれます。

学生時代は携帯もなく、待ち合わせといえば、ステンドグラス前でした。ショッピング、飲み会、あるいはデートなど、様々な場面で使われていたと思います。

仙台駅周辺は大きく変わりました。仙台の都市開発に詳しくはないのですが、以前は、ビルの展望台といえばSS30という施設でした。今は、仙台駅に隣接されるアエルという商業施設に、立地的にも取って代わったようです。

折角なので、展望台に行ってきました。自粛期間のためなのか、そもそも高いところに昇る人が少ないのか、人気が無く、一人になりたい、あるいは二人きりになりたい人にお勧めのような気もします。展望台にはJアラート発動時には屋内に避難するよう張り紙もありました。高層ビルの屋内に避難することに、どれだけの効果があるのか分かりませんが、気を付けたいものです。

このアエルの地上広場には四ツ谷用水をイメージした水路があります。四ツ谷用水はかつての、市内水路網のようなものですが、都市化が進み、ほとんど痕跡が無くなりつつあります。仙台には、この四ツ谷用水を愛してやまない人たちが多く、研究会もあります。

市内に住むことになりましたので、散歩がてら痕跡を探してみたいと思います。



写真-1 仙台駅ステンドグラス前

4. 広瀬川・名取川

水坤らしく、水に関わる話を書こうとすると、どうしても仙台では広瀬川を外すことができません。

広瀬川の風景は、弊社のパンフレットにも使われています。恐らくこの写真－２の風景です。



写真－２ 広瀬川の風景

広瀬川は街中をくねくねと流れ、川面に近づける場所も多く、散歩、ジョギングに適し、市民に愛される川となっています。今はローインパクトの考え方もあるので河原で焚火をすることがどうかと思うところがありますが、秋には河原で芋煮会をすることも多いです。

仙台は杜の都とよく言いますが、杜には水が必要です。この広瀬川があり、先に述べた四ツ谷用水のようなものもあり、本当は水の都なのだと思います。

仙台には、もう一つ大きな河川、名取川があります。

この名取川、広瀬川ほど人気が無いように思われます。単純に市境にあり、気軽に遊び行かないですし、下流のほうは川幅が大きく、川面に近づくのが容易でなく、親しみが湧かないからでしょうか。また、某有名歌手が広瀬川の歌は歌っていますが、名取川の歌は無いと思います。あるかもしれませんが、少なくとも私は知りません。

ところで、ここでクイズです。名取川にあって、広瀬川に無い、海に関するものは何でしょう？

仙台っ子ならすぐに答えられるでしょう。

正解は河口です。

広瀬川は名取川に注いでいて、名取川水系の支川です。当然、河口はありません。名取川からしたら、あいつは俺の支川なのに、人気ばかり出やがって、って感じでしょうか。

なんというか、名取川が不憫になってきました。そこで、名取川をアピールすべく、上流の秋保大滝、下流の閑上漁港についてご紹介したいと思います。

(1) 秋保大滝

秋保大滝は名取川の上流、地元の人が286と呼ぶ秋保街道を、途中、秋保温泉を通過し、その先の山奥にあります。日本三大名瀑に数えられると聞いたことがありますが、残る二つの滝がなんなのか分かりません。もしかしたら、自称三大なのかもしれません。

秋保大滝には思い出があります。とある休日、秋保大滝にでも行こうかという話になり、ドライブをしたのですが、その日は秋保街道を真っ直ぐ行くルートでなく、広瀬川沿いの作並街道から途中、山道に入って、秋保温泉の辺りに出るルートとしました。

山道から秋保街道に出て右折すると、道路は妙に空いていて、近くのガソリンスタンドの人たちが日本の国旗を振っていました。秋保温泉街入口の交差点で信号待ちをしていると、秋保温泉街のほうから日本で最も高貴な方々が乗っていると思われる車が連なり出てきました。きっと交通規制を掻い潜って対向車線に出て、すれ違ってしまったのかもしれませんが。先頭車両にいた方の驚きの表情と目線が今も忘れられません。

(2) 閑上漁港

閑上漁港は名取川の河口近くにあります。

読めますか？みなさん。「ゆりあげ」と読みます。

この「閑」という字は地方漢字・方言漢字です。伊達家に由来する文字と聞いたことがあります。恐らく仙台・名取近郊でしか使われていないと思います。

この閑上漁港ですが、昔の面影は無くなりました。原因はもちろん大震災です。今はお洒落な施設ができたみたいですが、訪れることができていません。

その昔、閑上漁港では、日曜日に朝市があり、大変活気がありました。駐車場のようスペースに水揚げされた魚介類が並び、買い求めるお客さんで賑わっていたと思います。市場と言えば屋台という感じで、浜辺焼を扱う店が並んでいたと思います。

学生の時に入っていたサークルが、総勢部員一桁、幽霊部員が大半のあまり活動しない部でしたが、サークル活動として何か企画することになり、当時結構行われていた夜間歩行をすることにしました。夜間歩くので、到着時は朝になります。目的地をどうするか悩んでいたところ、閑上漁港の朝市のラーメンがうまいという話となり、行き先が決まりました。

あまり覚えていませんが、とにかく夜中に大学に集合、幽霊部員もみな参加しました。水分補給に麦芽系清涼飲料水などを飲みつつ、どうでもいい話をしながら、朝方、閑上にたどり着き、へとへとになりながら魚介類の焼ける香ばしいにおいとラーメンを堪能し、バスで爆睡し市内へ帰ったと思います。いい思い出です。

5. おわりに

結局、仙台駅周辺が大きく変わったことと、秋保大滝と閑上漁港の話だけしか綴れませんでした。ほとんど出かけていないので昔の話ができて、今を語れません。

発刊される頃には、自粛ムードが解け、笑顔で暮らせ出かけられる日々が来ることを願ってやみません。



はじめてのニューヨーク

サンエー設計株式会社／総務部 桑島由紀子



1. はじめに

はじめまして。平成19年にサンエー設計株式会社に入社し、13年目になります。

今回の会員寄稿では、少し前になりますが平成29年8月（4年前）に行ったニューヨークの旅行記を書かせていただきたいと思います。

2. 準備

なぜニューヨークに行くことになったのか？

従兄がニューヨークに単身赴任しているのは叔母から聞いて知っていました。久々に会う機会があり「いつでも遊びにおいで」と。

早速、一緒に行く従姉と日程調整し8月11日～17日で往復の航空券を手配しました。もう5月中旬、飛行機の残席があと7席でギリギリでした。

限られた時間で効率よく観光したい。2ヵ月ほぼ毎週会ってプランを考えました。

行きたいところ、食べたいものがたくさんあり過ぎて、欲張りすぎプランになってしまいましたが果たしてプランどおりになるのでしょうか？

3. 出国～帰国まで

(1) 1日目

高松空港－羽田空港－ジョン・Fケネディ国際空港
久々の海外旅行で興奮状態です。

従兄から時差ボケになるから、ちゃんと寝るように言われていたのに、あまり眠れなかった。時差ボケとの戦いが始まりました。

入国審査がとても混んでいて入国に1時間以上かかり、ようやく無事に入国です。

従兄が車で迎えに来てくれたので昼食をして家に直行、荷物を置いて観光に出発です。

明日（2日目）からは、仕事があるので二人で観光するように言われ、家からのバス・地下鉄の乗り方を教えてもらいました。一緒に観光してくれるかも？と少し期待をしていたのですが、期待が外れてしまいました。



写真－1 ダコタ・ハウス

(1日目の予定)

ダコタ・ハウス、リンカーン・センター、エンパイア・ステートビル、タイムズスクエア

ニューヨークシティ・パスをネットで予約購入してきました。

ニューヨークシティ・パスは観光スポットの入場券をまとめた冊子です。チケットを購入する手間がかからなくて、優先的に入場できるとも便利なチケットです。

エンパイア・ステートビルでチケットを交換して、展望台へ。風が強かったのですが、ここから見る夜景の美しさは格別でした。

ニューヨークの代表的な場所といえば、タイムズスクエア。24時前なのに電光看板やチケットの階段をバックに記念撮影する人たちが大混雑。着ぐるみの人や、一緒に写真撮影するとチップを請求されると聞いていたので気を付けながら、私達も夢中で記念撮影しました。

(2) 2日目

(2日目の予定)

グッゲンハイム美術館、メトロポリタン美術館、5番街・マディソン街



写真-2 メトロポリタン美術館



写真-3 グッゲンハイム美術館

少し不安ですが、今日から2人で観光です。

早速、困った事態が発生しました。前日にメトロカード（7日間乗り放題）を購入していたのですが、私のカードだけが読み取らない・・・従姉は先に改札を通って私には気付かずに行ってしまいました。焦っていると、私がないことに気づき戻ってきてくれて、なんとかカードも交換してもらえました。

グッゲンハイム美術館は、独創的な建物が見たかった。内部は美しいらせん状になっていて、まず最上階まで上がり降りながら展示スペースを鑑賞できるようになっています。不思議な空間でした。

メトロポリタン美術館は、広すぎるのと時間が限られたので、全て回るのは厳しかった。エジプト美術とヨーロッパ絵画を中心に鑑賞しました。

5番街・マディソン街は有名ブランド店やブティックが軒を連ねている。ほぼウインドーショッピングで街並みを散策。

(3) 3日目

(3日目の予定)

セント・パトリック教会、ロックフェラー・センター

(予定変更) →ウッドベリーコモンアウトレット、オフ・ブロードウェイ（ブルーマン）

従兄が休みで、郊外にあるアウトレットモールに連れて行ってくれることになりました。予定変更です。

ブルーマンの14時～チケットを予約購入していたので、午前中しか時間がない。朝早くからの出発です。アウトレットモールに行き午前中だけの買い物、広すぎて時間が全く足りなのです。もう一度ゆっくり行きたかったのですが、最終日に予定変更して行くことにしました。

またまたハプニングです。下車する駅を間違ったり、道に迷ったりで、ブルーマンの開演時間を過ぎてしまいました。せっかくポンチョ席（前方の席には色々な物が飛んでくるので、それを防ぐためにポンチョを被る）をとったのに20～30分くらい遅刻です。入場させてもらえましたが、最初から見たかった。

(4) 4日目

(4日目の予定)

イントレピッド海上航空宇宙博物館、タイムズスクエア、自由の女神、チャージング・ブル、トリニティ教会、ワールド・トレード・センター跡地

今日も予定を詰め込みました。全部、回れるのか？心配でしたが、なんとか回れました。

イントレピッド海上航空宇宙博物館は、ハドソン川の栈橋に航空母艦が停泊。日本ではあまり見ることのできないスケールの大きな戦闘機、コンコルド、潜水艦、スペースシャトルなど展示されています。

もう一度、日中にタイムズスクエアで記念撮影して、



写真-4 自由の女神

自由の女神へ。フェリーに乗って間近まで行きました。自由の女神の中には入りませんが、リバティ島を満喫しました。

チャージング・ブル、トリニティ教会は記念撮影して、ワールド・トレード・センター跡地に行きました。ツインタワーの跡地には、メモリアルプールがあり、壁面は滝のように水が流れていた。当時、テレビ等で状況は見て知っていましたが、実際に来ると見るのがつらい。心が締め付けられるようでした。

(5) 5日目

(5日目の予定)

ブルックリン・ブリッジ (予定変更) →ウッドベリー
コモンアウトレット

ブルックリン・ブリッジを歩いて渡って、ブルックリンの街を散策したかったのですが、予定変更で3日目に消化不良だったアウトレットモールで一日過ごしました。

200店舗以上のブランドが出店している巨大アウトレットモールです。敷地内には買い物に疲れた方が座れる

ようにお店の間の通路に、ベンチを置いてあります。フードコート・レストランもたくさんあるので、一日楽しく過ごせました。

(6) 6日目

朝からバタバタと帰国の準備、13:25JFK発です。

従兄に空港まで送ってもらい、お別れです。

帰りの飛行機では、電池が切れたように眠りました。食事以外はほぼ寝ていたような気がします。

4. おわりに

今回の寄稿にあたり、楽しかった旅行を思い出し振り返ることができました。

ニューヨークは歴史的な建物と超高層ビルが入り混じった魅力あふれる街でした。

思っていた以上に見所が多いので、時間が全く足りず駆け足で観光しましたが、今度はゆっくりと、もう少し長く滞在したい。いつになるか分かりませんが、またもう一度、訪ねてみたい街になりました。